

宮古島で発見されたサキシマハブ *Protobothlops elegans* (クサリヘビ科) と生息確認調査

寺田考紀・浜崎真衣*・宮平誠人*・久志龍太**・長濱秀明**・仲間幸俊・古謝あゆ子

Sakishima-habu *Protobothlops elegans* (Viperidae) found on Miyako-island and inhabitation confirmation survey.

Koki TERADA, Mai HAMASAKI*, Makoto MIYAHIRA*, Ryuta KUSHI**, Hideaki NAGAHAMA**, Yukitoshi NAKAMA and Ayuko KOJA

要旨：2024年3月30日に宮古島でサキシマハブ1個体が発見された。サキシマハブが発見された地点付近および周辺の緑地帯を中心にハブ捕獲器30台を設置し生息確認調査を行った。3488罠日数の運用で、サキシマハブの捕獲は無かった。調査期間中に市民からのヘビ類確認依頼が17件あったが、サキシマハブの情報はなかった。2013年の発見例と場所、時期、個体の大きさがほぼ同じであることから、2例の侵入経路には関連性があることが想像される。

Key words:サキシマハブ, *Protobothlops*, 宮古島, 国内外来種, 定着, 沖縄県

I はじめに

サキシマハブ *Protobothlops elegans* は、八重山諸島に生息する毒ヘビであるが、沖縄島南部の糸満市の一部を中心に国内外来種として定着が確認されている^{1,2)}。2013年4月19日に本来生息していない宮古島でサキシマハブ1個体が捕獲された。すぐに定着可能性の有無を確認するため、捕獲地点周辺にトラップ30台を設置し約4か月間運用したが、サキシマハブは捕獲されなかった³⁾。おそらくは単独で荷物に紛れるなどして持ち込まれたもので、サキシマハブが同地域内に定着している可能性は低いと考えられた。今回、2024年3月30日に再び宮古島でサキシマハブ1個体が発見された。前回と同様に、定着可能性の有無を確認するため、トラップを用いた生息確認調査を行った。

II 方法

1. 発見の詳細

今回発見されたサキシマハブは発見者により宮古保健所に持ち込まれた。発見場所や発見時の詳細については宮古保健所が発見者に聞き取り調査と現地確認を行った。持ち込まれたサキシマハブはすでに死亡しており、死体は沖縄県衛生環境研究所に送られた後に計測を行った(図1)。

2. 生息確認調査

サキシマハブが発見された地点付近および周辺の緑地帯を中心に金穴型ハブ捕獲器(マウスをベイトにしたトラップ、以降「ハブ捕獲器」と言う)30台を任意の場所に設置した(図2)。ハブ捕獲器は、2024年4月10日から8月14日の126日間設置し、期間中2週間間隔で見回り点検を行い、サキシマハブ捕獲有無の確認とマウスの管理を行った。ヘビ類が捕獲された場合は種類の確認と写真撮影により記録した。ハブ捕獲器による調査は、沖縄県衛生環境研究所と宮古保健所、宮古島市役所の合同



図1. 2024年3月30日に宮古島で発見されたサキシマハブ。

* 宮古保健所

** 宮古島市環境保全課

で実施した。

3. 市民からのヘビ類確認依頼

調査期間中に宮古保健所に寄せられた一般市民からの種類の確認などの問い合わせと宮古島警察署への捕獲要請の日時、内容、ヘビの種類を記録した。ヘビの種類は、判別の難しいものは写真と実物により筆者（寺田）が同定した。

Ⅲ 結果

1. 発見の詳細

2024年3月30日13時30分頃、平良港内JAのコンテナが積み下ろしされる場所で、JA職員がコンテナ棚卸のためコンテナをフォークリフトで動かしたところ、その下で発見した。今回の発見場所は、2013年に発見された場所（ひらりん公園内ベンチ）と数十メートル程度しか離れていない³⁾。発見時すでに死んだ状態で、そのままペットボトルに入れて保管され、2024年4月1日14時50分頃に宮古保健所に持ち込まれた。寺田宛にメールで送られてきた写真を見てサキシマハブであると確信したが、念のため実物も送ってもらい確認をした（図1）。計測値

は、頭胴長 36.5cm、尾長 7.5cm、体重 12.7g、性別メスであった。胴体に骨折箇所が2か所あった。腐敗が進行していたため、消化管内容物等の確認はしていない。

2. 生息確認調査

3488 罠日数の運用で、サキシマハブの捕獲は無かった。他のヘビ類は、サキシママダラ *Lycodon rufozonatus walli* 33 個体、サキシマスジオ *Elaphe taeniura schmackeri* 1 個体が捕獲された（表1）。ヘビ類の平均捕獲率は 0.2965（個体/台/月）だった。

3. 市民からのヘビ類確認依頼

捕獲確認要請（警察を含む）8 件、写真や動画での確認依頼 5 件、死体の確認依頼 4 件の計 17 件の確認依頼があった（表2）。ヘビの種類別では、サキシマスジオ 13 件、サキシママダラ 2 件、サキシマバイカダ 2 件であった。サキシマハブは確認されなかった。

Ⅳ 考察

2013年の時と同様に今回も発見以降に2匹目が見つかることはなかった。おそらく人の手によって持ち込まれたと考えられ、港湾内で発見されたことから、船の荷物



図2. 生息確認調査におけるハブ捕獲器設置地点。○がハブ捕獲器を設置した地点。星印は2024年3月30日にサキシマハブが発見された地点。地図は国土地理院基盤地図情報のデータを基に作成。

表 1. 2024年捕獲器設置地点とヘビ類捕獲数. *はサキシマスジオ, 他はサキシママダラ. △は見回り時にマウスが死亡していたものでその期間の有効台数は0.5で計算. ×はこの期間捕獲器を設置していない, あるいは見回り時に捕獲器が壊れていたものでその期間の有効台数に含まない.

設置場所	番号	点検日										稼働 日数	合計
		4/10	4/24	5/8	5/22	6/5	6/19	7/3	7/17	7/31	8/14		
ひらりん公園 北ヤード (A地区)	A1											126	0
	A2											126	0
	A3											126	0
	A4											126	0
	A5							△	△			112	0
	A6											126	0
	A7											120	0
	A8											126	0
	A9								1			126	1
豊見親墓地周辺 (B地区)	B1			1		1		1	△	1	2	119	6
	B2											126	0
	B3		1*									126	1
	B4											126	0
	B5		1				1△		△			112	2
	B6											126	0
	B7			1								126	1
	B8									1		126	1
	B9		1					△				119	1
	B10		1	1			1		1			126	4
	B11		1		1			1		△		119	3
荷川取ポンプ場 (C地区)	C1		1				△			1△	△	105	2
	C2		×	×	×	△	△	△	1△	△	△	36	1
荷川取漁港 (D地区)	D1			1	1	1						126	3
	D2			2			1		△	△	1	112	4
	D3		1△	△	1△	1						98	3
	D4		△				×	1△				105	1
モンブラン周辺 (E地区)	E1							×	×	×	×	70	0
	E2								△			119	0
	E3											126	0
	E4											126	0
捕獲数			7	6	3	3	3	3	3	3	3		34

表 2. 宮古保健所への問い合わせと宮古島警察署への捕獲依頼の内容とヘビの種類.

No.	月 日	相談者	内容	結果
1	4月8日	市民	撮影動画提供. ハブではないか?	サキシマスジオ生
2	4月23日	宮古島警察署	撲殺	サキシマスジオ死
3	5月1日	宮古島警察署	自宅内にヘビがいるとの110通報.	サキシマスジオ生
4	5月7日	市民	ヘビの死体がある.	サキシマバイカダ死
5	5月7日	宮古島警察署	2 m くらいのハブがいるとの110通報.	サキシマスジオ死
6	5月8日	市民		サキシママダラ死
7	5月20日	宮古島警察署	庭にヘビがいるとの通報. 警官到着時には木にいた. 撲殺.	サキシマスジオ死
8	5月20日	市民	家の外の道にヘビがいる. 現着したところ通報者宅の木製雨戸の隙間に入り込んだとのこと. 雨戸を引き出しフマキラーや棒を駆使して取り出した.	サキシマスジオ生
9	5月21日	市民	ヘビの写真鑑別依頼.	サキシマスジオ生
10	5月23日	宮古島警察署	家の敷地内にヘビがいると市民から通報があり, 警察にて対応.	サキシマスジオ生
11	5月24日	市民	40cm くらいのヘビがいて, 殺して道路わきに投げたと架電. 身体は縞々だが頭は三角形とのこと. 現場にて死体を回収.	サキシママダラ死
12	5月31日	市民	自宅敷地内の踊り場に大きなヘビがいる. 「どうにかしてほしい」と架電.	サキシマスジオ生2匹
13	6月3日	宿泊施設	ハブラしきヘビを見つけて動画を撮ったので, 確認してほしい.	サキシマスジオ生
14	6月3日	市民	家の敷地内に頭が三角形のヘビがいて, サキシマハブだと思う, 確認してほしい.	サキシマスジオ生
15	6月11日	市民	駐車場にヘビの死体がある. 特徴を聞いたところ, サキシマスジオと判断した.	サキシマスジオ死 (未確認)
16	7月9日	市民	ハブかヘビかわからないが死んでいる. 写真を送ってもらったところ, サキシマスジオであった.	サキシマスジオ死
17	7月13日	空港管理事務所	ハブかヘビかわからない死骸があるので, 写真を見てほしい.	サキシマバイカダ死

に紛れて持ち込まれた可能性が考えられるが, 侵入経路など詳しいことはわかっていない. 夜行性のヘビは特に人目につきにくく, すぐ近くに棲んでいても人に気付かれないことがほとんどである. 沖縄島のタイワンハブや栗国島のハブのように, 1 匹見つけた後にハブ捕獲器を用いて調査すると立て続けに捕獲された例もある^{1,4)}. 宮古島での事例は 2 例とも港湾内で発見されたもので, 港湾内はヘビが隠れる場所が少なく発見しやすい環境であることが早期発見につながったかもしれない. 宮古島でのこの 2 例は, 場所 (平良港内, 数十 m の距離), 時期 (4 月 19 日と 3 月 30 日), 個体の大きさ (全長 44cm) がほぼ同じであることから, この 2 例の侵入経路には関連性があることが想像される. 再度, 同様な持ち込みのリスクがあると考えられることから, 特に港湾地区での監

視の継続が望まれる.

ハブ捕獲器を用いた調査で, ほとんどがサキシママダラであるが宮古在来 of ヘビ類が捕獲され, その捕獲率からも宮古島では比較的に高い密度でヘビ類が生息していることが推測できる. 今回ハブ捕獲器を設置した A 地区と B 地区は 2013 年にも同じように調査していて, B 地区はヘビ類の捕獲数に大きな差はないが, A 地区は 2013 年にはハブ捕獲器 7 台設置しサキシママダラ 13 個体が捕獲されており, 今回の捕獲数が大きく減少している³⁾. 八重山諸島ではサキシマハブとサキシママダラは同所的に生息しているが, 体の大きさや食性も似ており夜行性である両種の間には少なからず干渉はあると思われる^{5,6,7)}. A 地区でサキシママダラの個体数が減少している理由については不明であるが, 2013 年に比べて競合しそうな種

が減少したのであればサキシマハブにとってより定着しやすい環境に変化した可能性がある。

「頭が三角形」という通報が2件あったが、実物を確認するとサキシママダラとサキシマスジオであった。沖縄では「頭が三角形」のヘビは毒ヘビであると一般によく言われている。クサリヘビ科マムシ亜科のヘビは、頭部が三角形で大きく、頸部が細いので「頭が三角形」という表現がよくあてはまる⁷⁾。しかし、一般市民が見るとナミヘビ科のヘビの頭も三角形と感じてしまうことがあるようだ。市民への啓発には、三角形という言葉だけでなく、写真等を用いて正確に違いを伝える工夫が求められる。

＜謝辞＞

ハブ捕獲器設置にご協力いただいた宮古島市役所財政課その他関係各課、宮古島漁業協同組合、宮古農林水産振興センター農林水産整備課に感謝申し上げます。

V 参考文献

1) 寺田考紀 (2011) 沖縄島に定着した台湾ハブ・サ

キシマハブ・タイワンスジオの生息状況と対策. 爬虫両棲類学会報. 2011(2) : 161-168.

2) 松井創・寺田考紀 (2013) 沖縄島におけるサキシマハブの分布-2012年度生息実態調査結果. 平成24年度危険外来種咬症対策モデル事業報告書. 沖縄県. 13-16.

3) 寺田考紀 (2014) 宮古島におけるサキシマハブ生息確認調査. 平成25年度危険外来種咬症対策モデル事業報告書. 沖縄県. 17-20.

4) 寺田考紀・濱川功・仲間幸俊・古謝あゆ子 (2023) 粟国島におけるハブ定着の可能性. 沖縄県衛生環境研究所報. 57 : 110-112.

5) 高良鉄夫 (1962) 琉球列島における陸棲蛇類の研究. 琉球大学農家政工学部学術報告 9 : 1-156 +pls.1-22.

6) 前之園忠史・戸田守 (2007) 琉球列島における両生類および陸生爬虫類の分布. Akamata . 18 : 28-46.

7) 日本爬虫両棲類学会 (編) (2021) 新 日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版. 232p.